

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢がん患者のアドヒアランスの把握と効果的な支援プログラムの開発

研究分担者 山口正和 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 薬剤部
薬剤部長
市田泰彦 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 薬剤部
副薬剤部長

研究要旨 経口抗がん剤は患者本人が用法・用量を遵守する必要があり、そのためには適切な服薬管理を行える十分な認知能力が必要である。一般に高齢者では認知能力が低下していることから服薬アドヒアランスが低下しやすく、認知能力の低下が治療継続に影響を及ぼす恐れがある。高齢者における経口抗がん剤の服薬アドヒアランスを把握するため、後方視的調査を検討した。服薬に管理能力を必要とする休薬期間があり、長期にアドヒアランスを観察可能なレジメンとして、S-1による胃がんの術後補助化学療法を選択し、薬剤師外来での指導記録をもとに服薬アドヒアランスの実態調査を計画している。

A. 研究目的

高齢がん患者の服薬アドヒアランスの実態把握

B. 研究方法

国立がん研究センター東病院において胃がん術後補助化学療法として S-1 単剤療法を施行された高齢患者の服薬アドヒアランスに関する後方視的調査

対象：

2016年1月から2017年12月末までに薬剤師外来を受診し、S-1の服薬アドヒアランスの記録がある症例

（倫理面への配慮）

本研究を実施するにあたり、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の倫理的原則を遵守して、患者の人権、福祉および安全を最大限に確保する。

C. 研究結果

計画段階のため記載事項なし。

D. 考察

記載事項なし。

E. 結論

記載事項なし。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

記載事項なし。

学会発表

記載事項なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし

